

柏崎 守 初代会長の死を悼む



柏崎 守 初代会長

日本 SPF 豚研究会の初代会長として本会の設立とその後の発展に多大なる貢献をされた柏崎 守氏は、2017年10月11日脳腫瘍のため逝去されました。享年78歳でした。その数ヶ月前にご転居通知をご直筆で頂いたばかりでしたので訃報を知らされ文字通り驚愕するとともに、深い悲しみを覚え今なお大きな喪失感を感じております。

氏は1962年3月に岩手大学農学部獣医学科を卒業後、直ちに農林水産省家畜衛生試験場（以下家衛試）に奉職されました。当時家衛試では、波岡茂郎博士を中心に SPF 豚研究班が設置され（1963年）、わが国初の SPF 豚作出に向けた準備が開始されていました。

波岡博士は米国ネブラスカ大学で SPF 豚の作出に成功していた Young と Underdahl のもとに

留学し、最新の知識と技術を持ち帰っていました。手足となって博士を支えたのが入省間もない柏崎氏で、その3年後の1965年には SPF 豚の生産が開始され始めました。すなわち、氏はわが国 SPF 豚の黎明期から今日に至るまで一貫してその普及に邁進されて来られました。

柏崎 守氏は、前述のように1962年、家衛試に奉職されてより1999年に退職されるまでの37年間に、75年主任研究官、83年細菌第一研究室長、90年研究第一部長、92年企画連絡室長、96年場長を歴任されましたが、途中2度に亘って農林水産技術会議事務局に出向し、家畜衛生のみならず農林水産全般にわたる研究開発の推進に携わられました。このことは氏の幅広い知識と巨視的な視点の礎となりました。

一方、波岡博士が北海道大学へ転出されてからは、家衛試にとどまらず、わが国 SPF 豚の技術的支柱としてその普及に尽くしてこられました。また 1992 年、赤池洋二氏とともに本研究会を設立され、初代会長として、単なる研究会の枠を越えた活動を展開されました。中でも 1994 年、日本 SPF 豚協会が SPF 豚認定制度を発足させるのに際して、SPF 豚としての認定基準を研究会として提言されたことは特筆すべきことだと考えます。この認定基準は漸次改訂を重ね、次第にベンチマーキングを導入した生産指標を重視する方向へと改訂されてきております。ただこの点に関しては、あくまでも specific pathogen free を追求す

べきという小生に対して、「畜産目的の SPF は実験動物の SPF とは違う」と主張され、何かの折りにはいつも議論しておりました。換言すれば、氏は理想論ではなく常に現実論の立場から、生産者のレベルアップを図ろうとされて来られたと言えます。もうこれからは氏と「わが国が目指すべき SPF 豚」に関する熱い議論ができなくなってしまったと思うと一抹の淋しさとともに、本研究会のさらなる発展のため、残されたわれわれは一層の努力をしなければならないと決意を新たにしております。誠にありがとうございました。合掌。

山本孝史（第 2 代本会会長、元東京農大・教授）